

# ガッコ親父の

昔々、桜の里山におじいさんとおばあさんが幸せに住んでいた。ただ、子供がいないのが心残りだった二人は、里山の神様をお願いをした。「神様、私たちに子供を授けてください」。神様はその真面目な生活態度に報いるため、桜吹雪と共に小さな男の子を二人の元に届けたのだった。

神様から授かった男の子は親指サイズでも小さかった。二人は喜び、「一寸法師」と名付け、大きくなるようにと自分達のおかずも一寸法師に食べさせた。一寸法師は申し訳なく思い、「都に行つて働きたい」と自立を願ひ出た。

おじいさんは男の身だしなみにと、針でこしらえた刀を持たせた。おばあさんはお椀で船を作つてあげた。一寸法師は都に続く川をお椀の船で出かけた。

都に出たものの、体力が要る仕事は無理だったので、持ってきた針を使い、「帽子屋」を始めることにした。体が小さい分、針仕事も細かく丁寧で、あつという間に都の人気店になった。烏帽子からツバ広帽子まで客のニーズに合わせてなんでも作った。お城のお姫様も訪れ、専属帽子屋として契約してもらった。

だが、いい話だけではなかった。噂を聞きつけた鬼たちが訪れ、『一寸帽子屋』とか、ふざけたシヨツプ名がついとるバツテン、どんな帽子でも作れるらしいな。ツノがある俺たちにもピツタリの野球帽を作つてくれんか」と無理難題を押し付けた。一寸法師は悩んだがなかなか良いデザイン案が浮かばなかった。

ある日、お姫様と森の中を連れ立って歩いている時に、突如二匹の鬼が現れた。「おい、俺たちの帽子はまだできんと、こんなところでデートか？ ふざけちゃいかんばい」と凄んだ。「この女は俺たちが預かるけんね。いやなら早く帽子を作るこつたい」。手を掴まれたお姫様は悲鳴を上げた。

一寸法師は無礼な鬼たちに針の刀を出して構えたが、逆に鬼から襟首を捕まえられて、パクリと丸呑みされた。しかし一寸法師は鬼のお腹の中で戦った。針を刺され苦しんだ鬼は一寸法師を吐き出し、残りの鬼も針で目を刺されて退散。あまりの痛さに鬼たちは打出の小槌を置き忘れて逃げていったのだった。

お姫様は背がのびるように『背伸びろ』と言って、小槌を振った。すると一寸法師の背がスツと伸びて、体格の良い若者になった。二人は結婚。里山に残したおじいさんとお婆さんを都に呼び寄せ、楽しく暮らした。

やがて2023年の春、「異世界野球選手権大会」が開かれ、「鬼チーム」と「人間チーム」の決勝が行われた。人間チームのキャプテンはあの一寸法師の子孫で二刀流の「松次郎」だった。試合前のロツカルームで円陣を組み「今日だけは強い鬼を恐れるのはよそう。あの桃太郎で有名な鬼ヶ島に住む強い鬼も来ているが、恐れを捨てて勝つことだけに専念しよう」と声を上げた。そして「勝つたら、もろろん『しまっちゅ伝蔵』で乾杯だ！ さあ、行こう」と叫んだ。みんな、その気になったのは言うまでもない。

奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵

常圧蒸留

昔ながらの手造り  
こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)



25度  
好評発売中



喜界島酒造株式会社  
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12  
TEL 0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



喜界町  
鹿児島県

# 「一寸法師」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。